

# そよ風

第4号

今治市立立花中学校

## 門柱に思いを込めて — 與平さんの足跡を訪ねて —

次の資料は、私が「えひめ人権・同和教育」の編集委員をしていたときにまとめた資料です。

今治に與平さんが暮らしていました。（明治から大正期のころです。）與平さんは被差別部落の出身でした。（当時は、同和教育が進んでおらず厳しい差別の現実がありました。）そのため家が貧しく、ほとんど学校に通えないまま仕事に就きました。

與平さんは、桜井漆器の椀船で九州地方に行商に行きました。仕事を始めた頃、次のように言っていました、「文字も地図も読めない者にとって、行商は過酷です」と、しかし、與平さんは、持ち前の負けん気と商才で、苦労に苦労を重ねて多くの財を築きました。

また、與平さんは、「自分は学校に通えず苦勞しました。今の子どもたちには、みんな仲良く学校に通い、しっかりと勉強してほしい」という強い願いがありました。世の中は、大正デモクラシーの大きなうねりの中、全国で水平社運動が行われていました。與平さんの地域でも水平社運動が行われており、自分も何かしたいと思いました。1922（大正11）年4月に還暦の記念と差別をなくしたいという強い願いから市内のある小学校に立派な石の門柱を寄贈しました。この門柱は、当時から今日まで子どもたちを出迎え、見守り続けている歴史の生き証人です。與平さんの思いが子どもたちや地域の人々に届いているのでしょうか。（残念ながら21世紀の今日でも、部落差別をはじめ、様々な差別が存在しています。私たちは、與平さんの差別をなくしたいという強い思いに立ち返る必要があるのでは・・・。）

小学校に行ってこの門柱を触ってみると、差別のない社会をつくりたいという與平さんの熱い思いや願いがひしひしと伝わってきます。この思いや願いを子どもたちや地域の人々に伝えていきたいと思えます。

